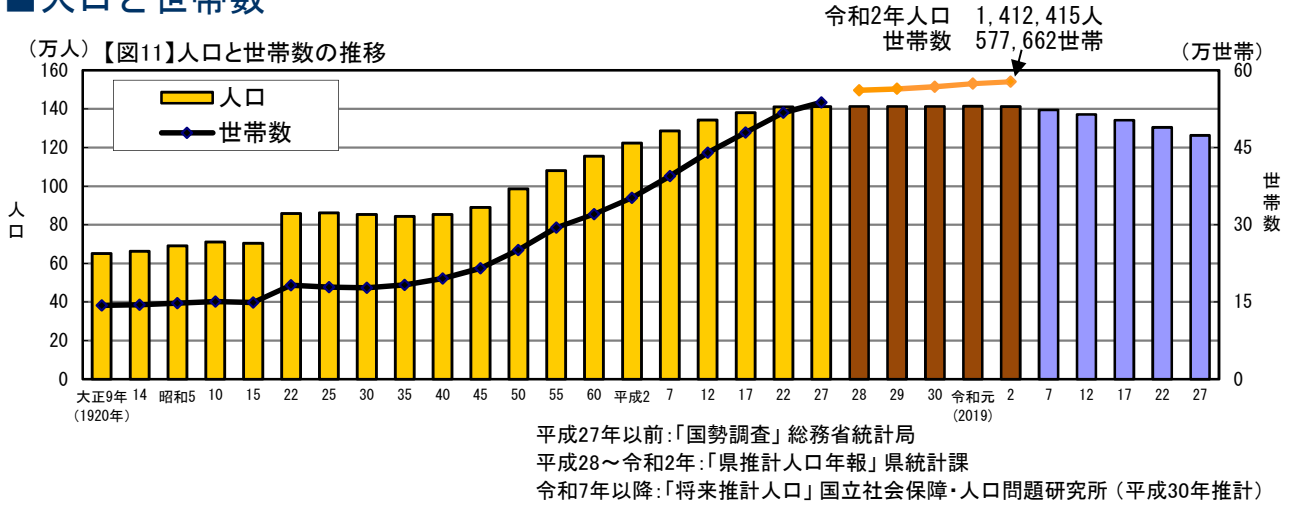


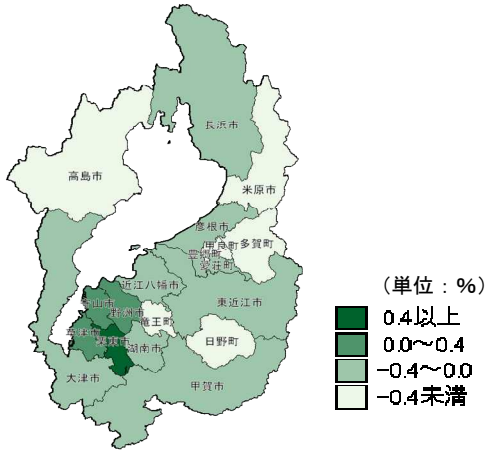
人口

■人口と世帯数

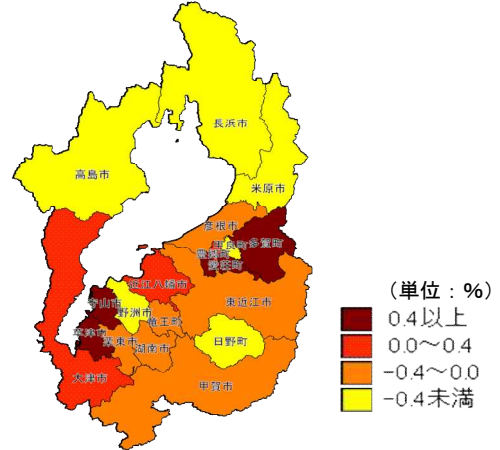


■人口増減率

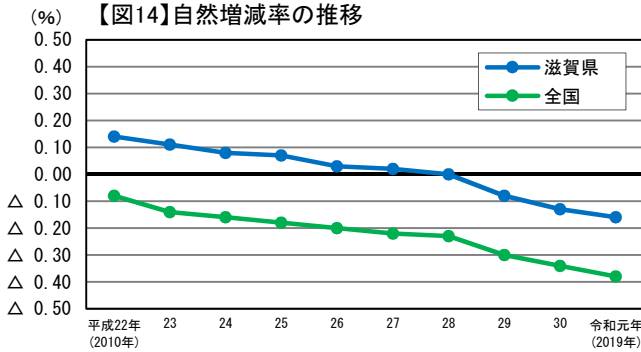
【図12】自然増減率
(令和元年10月1日～令和2年9月30日)



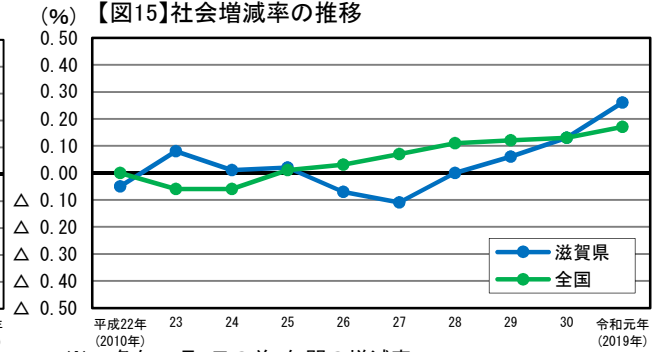
【図13】社会増減率
(令和元年10月1日～令和2年9月30日)



【図14】自然増減率の推移



【図15】社会増減率の推移



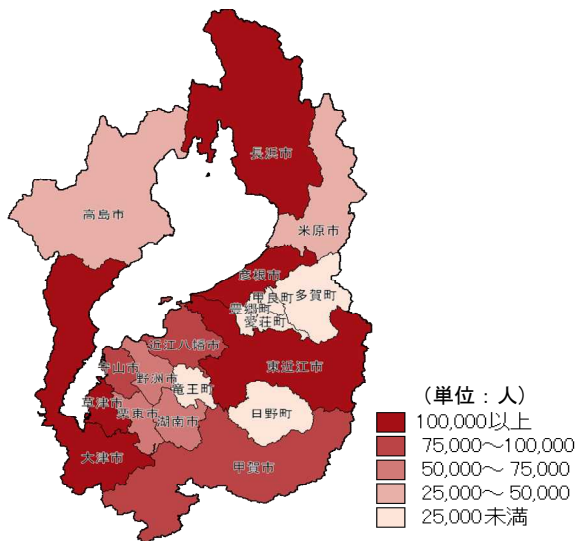
・令和2年10月1日現在の滋賀県推計人口は、1,412,415人となり、令和元年と比べると、1,544人の減少となった。(図11)

・自然増減率が最も高いのは栗東市(0.53%)、最も低いのは甲良町(△0.95%)、社会増減率が最も高いのは草津市(0.69%)、最も低いのは甲良町(△0.84%)となっている。(図12)(図13)

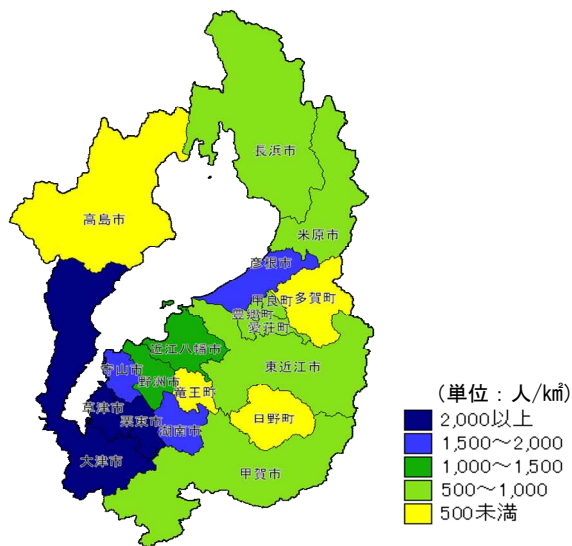
・令和元年10月1日現在の総務省統計局人口推計では、滋賀県の人口増減率は0.11%で全国6位であった。自然増減率は△0.16%(全国4位)、社会増減率は0.26%(全国7位)であった。(図14)(図15)

■市町別人口と人口密度

【図16】市町の人口



【図17】可住地面積1km²当たりの人口密度



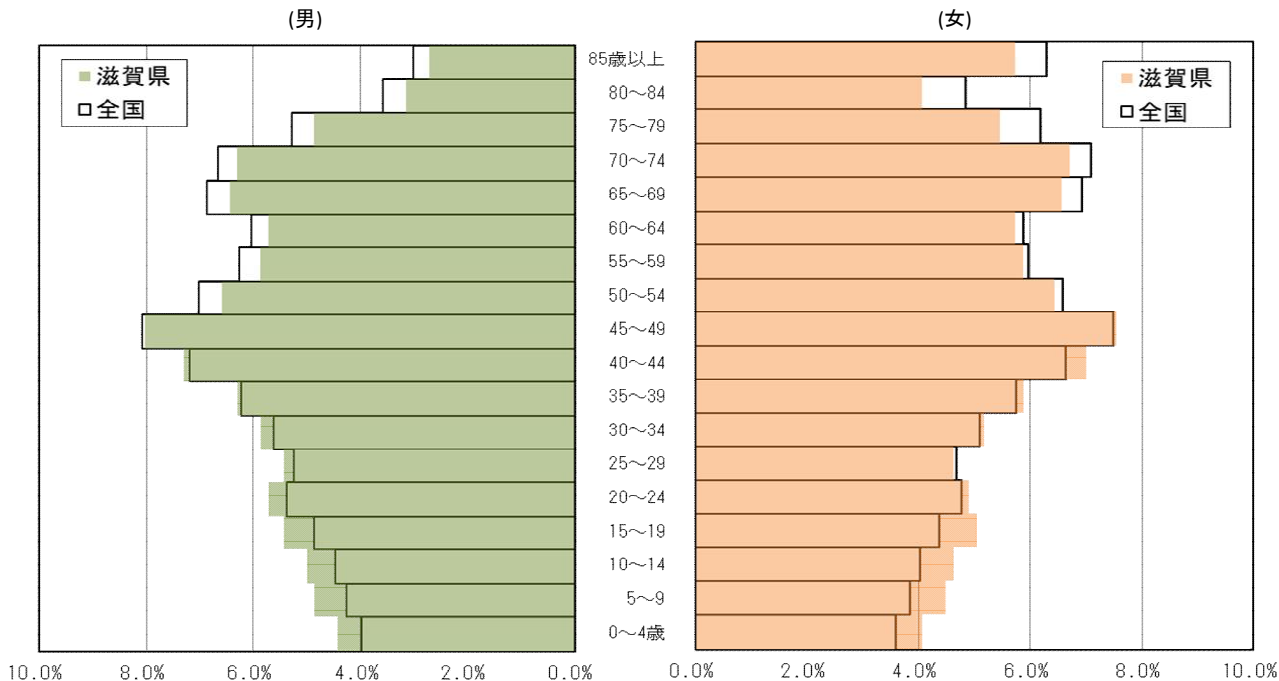
人口：「県推計人口年報」県統計課（令和2年10月1日）

可住地面積：「統計でみる市区町村のすがた2020」総務省統計局（平成30年度）

■人口ピラミッド*1

*1 人口の男女、年齢構成を表すグラフ

【図18】男女別・5歳階級別人口の割合



「人口推計」総務省統計局（令和元年10月1日現在）

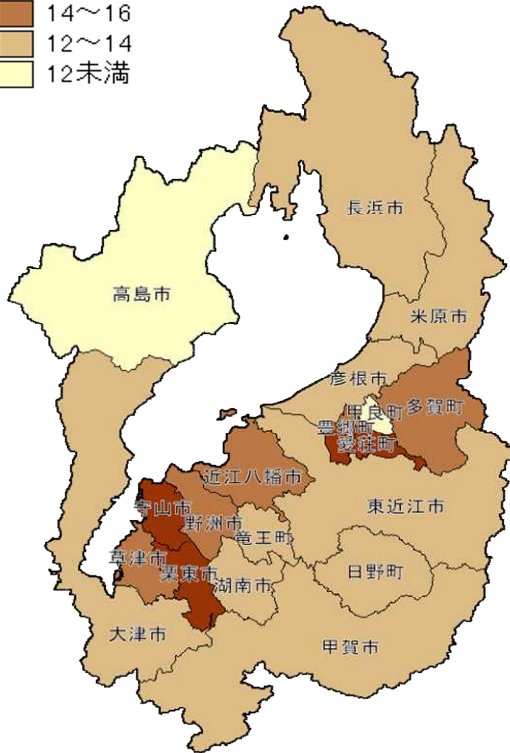
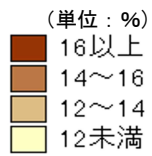
・令和2年10月1日現在の県の総人口（推計）は、1,412,415人で、市町別にみると、大津市の342,608人が最も多く、次いで草津市（143,104人）、長浜市（114,094人）の順が多い。（図16）

・可住地面積(平成30年度)1km²当たり市町別人口密度は、草津市が最も高く、次いで大津市、栗東市の順で高い。（図17）

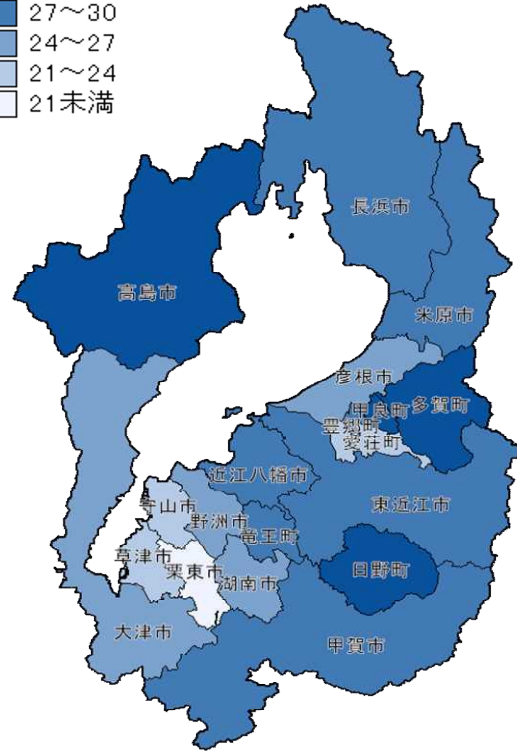
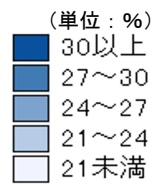
・県内の15歳未満の年少人口は約19万5千人で全人口の13.8%、15～64歳の生産年齢人口は約85万2千人で総人口の60.3%、65歳以上の老年人口は約36万7千人で総人口の26.0%である。（図18）

■年齢3区分別人口構成比（市町別）

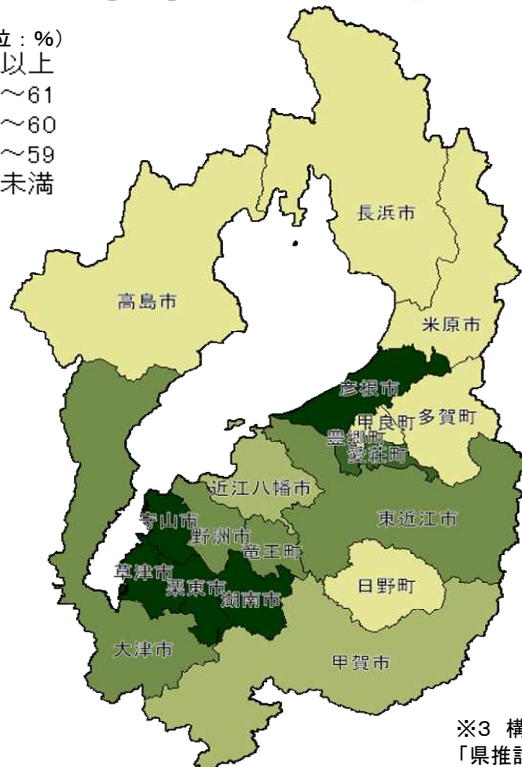
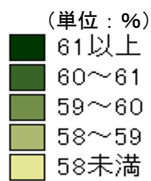
【図19】年少人口（15歳未満）



【図20】老年人口（65歳以上）



【図21】生産年齢人口（15～64歳）

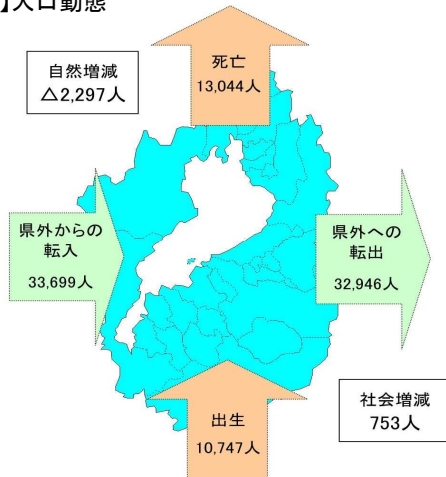


※3 構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
「県推計人口年報」県統計課（令和2年10月1日現在）

- ・年少人口割合を市町別にみると、栗東市と愛荘町が16.5%で最も高く、高島市が10.9%で最も低い。（図19）
- ・老年人口割合は高島市が36.1%で最も高く、栗東市が18.9%で最も低い。（図20）
- ・生産年齢人口割合は栗東市が64.6%で最も高く、多賀町が51.2%で最も低い。（図21）

■人口の動き（人口動態）

【図22】人口動態



「県推計人口年報」県統計課（令和元年10月1日～令和2年9月30日）

くらしの数字

滋賀県の1日（全国の1日）

出生数 29.1人（2,370.5人）

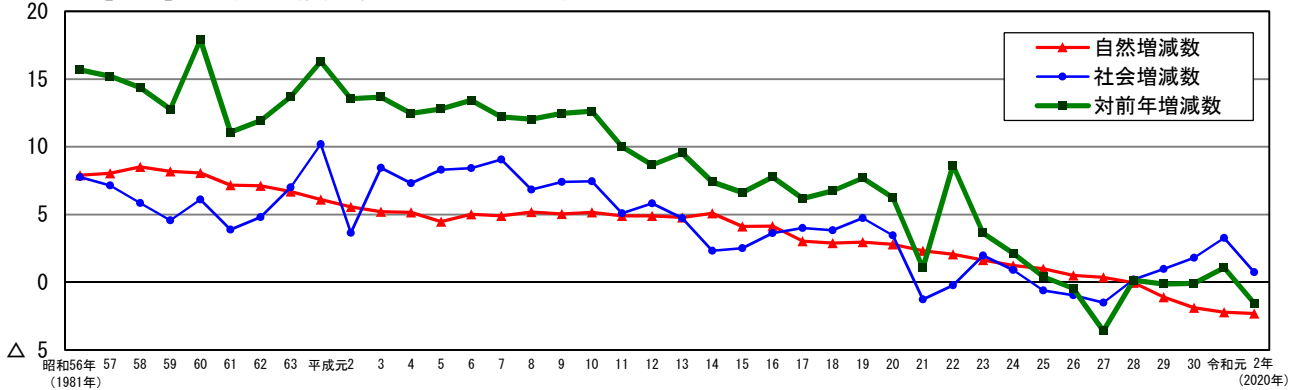
死亡数 36.2人（3,783.8人）

婚姻件数 17.6件（1,641.1件）

離婚件数 5.7件（571.2件）

「人口動態統計」厚生労働省
（平成31年1月1日～令和元年12月31日）

（千人）【図23】人口動態の推移（各年10月1日現在の前1年間）

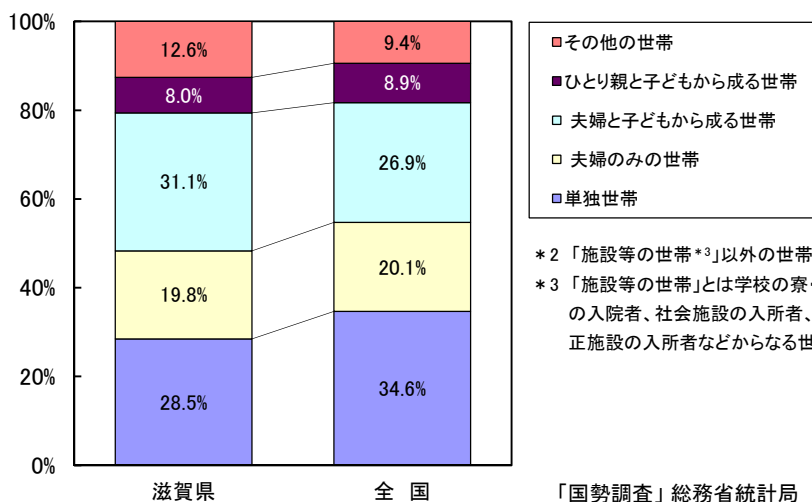


※4 国勢調査年は、同調査の人口を用いるため、対前年増減数は、自然増減数と社会増減数の合計とは一致しない。

「県推計人口年報」県統計課

■世帯の家族類型

【図24】一般世帯*2の家族類型別割合（平成27年10月1日現在）



・令和元年10月1日～令和2年9月30日の出生数は死亡数を下回り、自然増減数は Δ 2,297人となった。県外からの転入人口が県外への転出人口を上回り、社会増減数は753人となった。（図22）（図23）

・平成27年国勢調査では、一般世帯のうち28.5%（全国34.6%）が単独世帯となっている。（図24）